

市民生活白書
昭和五十四年
横浜市

1979

横浜

きのの

今日、

あした

中央ヨコハマ ☎262-0050

横浜市立図書館



2049774209

1979-1

— 目次

I 横浜のあゆみ

二〇年前のくらし 1

ふえない商店・工場数 賃金はあがったが…… もはや戦後ではない

斜陽からの脱却 個人のくらしと物価 電化生活がはじまる

横浜のまちづくり 7

都市自治は居留地から 幕府による町づくり

居留地における都市施設 みんな横浜へきた

ふたりの市長 12

横浜の黄金時代 震災のあとに

高度成長とともに 16

スプロールはじまる 人口が爆発的にふえる

都市づくりの根幹 横浜のイメージチェンジ

I 目次

2 横浜のすがた

横浜市民のすがた 21

全国第二位となった横浜の人口 都心の空どう化と周辺の開発

就業者の二割は東京へ

横浜の都市のすがた 26

全市域の二六％は住宅地 卸売業・小売業が第一位に

工業の第一位は輸送機 弱い卸売業 小売店は百人に一店

全国一の外国貿易港 強い東京の商機能

3 市民の生活意識

市民の生活構造 32

ある平日と休日の生活行動 東京依存度が高い「美術館等」

余暇行動をした人、したい人

くらしむぎ 37

生活の満足感が少しずつ上昇

市民の生活環境と意識 39

居住地で異なる生活環境の満足・不満 幼児の遊び場に満足、小中学生の公園に不満

住みよい所は働く人には不便 住いの価値観反映する居住地選択

市民の市政要望 46

「物価」「医療」に強い要望 若い男性に要望の強い「スポーツ施設」

臨海部で「老人福祉」周辺部で「医療」

地域社会への関心と活動 50

三割が親密な近所づきあい 公園の草取りに「出る」人が四割

住民の役割と行政の役割 趣味やスポーツの活動が盛ん

「地域より職場」の男性の今後は？

行政への意識 56

「住民がやる」人ほど参加意欲が大きい 公共事業への意識に変化

4 市民生活と市政

1—市民の生活 61

消費生活 61

物価は二倍になる 苦しい家計のやりくり 物価に挑む

賢い消費者を育てる みかんの入荷量が三割を占める

住宅 67

にぶる住宅建設 住宅水準はわずかに向上 伸び悩む公営住宅

社会福祉 72

福祉の風土をつくる

△生活保護▽ 73

増える保護世帯 単身の保護受給者が急増

△老人▽ 76

急速に進む高齢化 老後は家族と暮らしたい かさむ老人医療費

△子ども▽ 79

すすむ保育所建設 健全な青少年を育成

△心身障害者▽ 81

増える身体障害者 早期療育と社会参加に重点 望まれる年金の充実

健康 85

九人に一人が病氣 足りない医療施設

充実する救急医療 強まる成人病対策

教育 91

目立つ熱通い かさむ家庭教育費 教育内容と方法を開発

第二次ピークを迎える学校建設 障害児の全員就学に備える

2—生活環境 97

都市景観 97

横浜の都市づくり 新しい魅力を求めて 市民がつくる街の魅力

緑と公園 100

減少していく緑を守る 都市農業の果たす役割

遅れている公園整備 必要な計画的整備

都市の安全 104

年間一九億円が灰に 減ってきた交通事故 依然として多い風水害被害

地震に弱い横浜 大地震に備えて

公害 108

窒素酸化物への対応が問題—大気汚染

河川のごれは横ばい

廃棄物 111

増加する廃棄物 週二〜三回の収集 進む工場建設

再資源化への努力

水道 115

新しい水源を求めて 都市生活に欠かせない水

下水道 117

三五%の水洗化率

3—横浜の都市構造 119

骨格の形成 119

昭和初期に完成した横浜の骨格

戦後の骨格形成のおくれ

都市づくり 122

進む基幹事業 都市づくりにおける総合調整

4 横浜の経済 127

産業活動と市民生活 127

市民生活と産業 産業の立地と土地利用

産業活動の実態 129

工業 商業 金融活動 貿易 事業所

地域経済政策の課題 139

経済団体 リーディング・インダストリー 国際都市「横浜」

5 地域社会と文化 142

活発化する地域活動 142

地域に根づく市民文化 伸びゆく体育活動 育つボランティア活動 発展するヨコハマ文化

地域活動を活発化させるもの 整備される市民利用施設 特色ある市民利用施設

6 行財政と市民 149

財政の状況 149

増大する財政需要 歳入と歳出 自主財源の強化が必要

効率的な行政を目指して 152

効率的な行政運営 事務の機械化、近代化

市民参加の推進 153

広聴制度の充実 区民会議の誕生と発展 市民参加の展望と課題

市政の長期展望 158

5 あすの横浜をめざして

新たなハマッ子意識を 鶴田要一 162

都市づくりに経済人の知恵と経験を 鶴岡 博 163

都心臨海部の再開発とうるおいのある地域づくり 吉田次郎 164

横浜の「顔」と「心」を美しく 子安精司 165

国際都市にふさわしい都市づくり 高見澤一男 166

視覚的快感のあるうれしい街に 田島恭子 168

「横浜」ごった煮の味 青木雨彦 169

インターナショナル横浜 平野 恒 170

障害者地域作業所の役割 玉井 明 171

働らく若人のふれあいの場を 根本愛弓 172

市民一人ひとりが支える地域 荒井幸子 173

座談会 175

「あすの横浜をめざして」

出席者 井手文雄

丸尾直美

細郷道一

年表 191

あとがき

横浜、きのう、今日、あした

市民生活白書

昭和五四年三月三十一日発行

編集・発行 横浜市企画調整局

横浜市中区港町一丁目一番地

電話(045)6712016

印刷 内村印刷株式会社

装幀・デザイン 矢次勝博

700円